

**DREAM POWER**

# エンジンオーガー

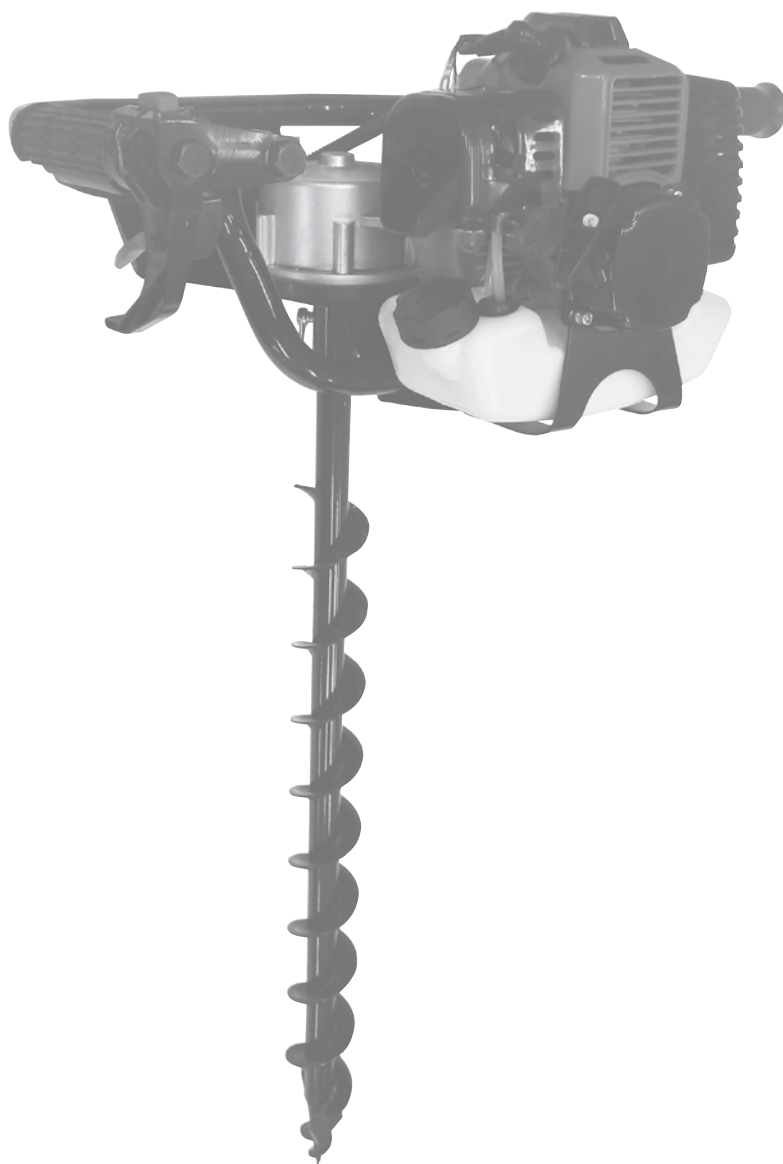
**EA-33D**

**ENGINE AUGER**

## 取扱説明書

このたびは、弊社「エンジンオーガー EA-33D」をお買い上げいただきましてまことにありがとうございます。

ご使用前には必ず取扱説明書をお読みください。なお、取扱説明書は大切に保管してください。




※ドリルは別売品です。写真はEA-33D用ドリルφ60×800mmを装着しております。  
この製品は、海外ではご使用になれません。  
USE ONLY IN JAPAN.



# 【安全上のご注意】

- ◆ご使用になる前に安全上のご注意を良くお読みになり正しくお使いください。
- ◆ここに示した注意事項は、守らないと、人身事故や物的損害、火災に結びつく重大な内容を記載しています。
- ◆読み終わったあとは、お使いになる方がいつでも見られる場所に保管してください。
- ◆本機を譲渡される際は、必ず取扱説明書を付けてお渡してください。


## ●表示と意味




 **警告**










使用を間違った場合に、人が死亡、または、重傷を負う危険・物的損害・火災の危険性が想定される内容を表記しています。

 **注意**


















使用を間違った場合に、人が傷害を負う危険性・物的損害の発生が想定される内容を表記しています。

- ※  注意の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な事故に結びつく危険性があります。安全にご使用していただくために、いずれの注意も必ずお守りください。
- ※取扱上の危険についてすべての状況を予測することはできません。ここに記載した注意事項以外にも十分な配慮をしてご使用ください。


















図記号の例		図記号の意味
	禁 止	行為の禁止を示します。
	強 制	行為を強制・指示する内容を示します。
	注 意	注意を促す内容を示します。

 <b>警告</b>	
・エンジンを始動させる前に必ず各部の点検を行ってください。	
・疲れている時や体調の悪い時、酔っぱらっている時、又は薬物を服用している時は絶対に使用しないでください。	
・エンジン音の異常や作業中に異常を感じた際は、使用をすぐに止め、点検または修理を依頼してください。	
・燃料はこぼさないように注意してください。こぼしてしまった場合には、こぼした燃料を良く拭き取り、完全に乾燥させてからご使用ください。	
・燃料は注入口の口元一杯まで入れず、8分目程度にしてください。運転時に燃料タンクキャップから燃料が漏れる恐れがあります。	
・燃料は必ず潤滑油混合ガソリン25：1(無鉛ガソリン：2サイクルエンジン専用オイル)を補給してください。軽油・灯油・高濃度アルコール含有燃料・粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使用しますと、エンジンを損傷する原因となります。	
・分解・改造は絶対にしないでください。分解・改造を行った時点で、一切の保証の対象外とさせていただきます。また、分解・改造を原因とする事故・損害などに対して、当社は一切の責任を負いかねます。	
・屋内や倉庫等の換気の悪い場所では使用しないでください。また、風通しの悪い場所や排気のかもる場所では使用しないでください。一酸化炭素が溜まり、ガス中毒の原因となります。	






 **警告**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運転中はもちろん、使用しないときでも本機の上に物を置かないでください。破損や故障、思わぬ事故の原因となります。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 機械の点検や修理を行うときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。また、点火プラグからプラグキャップを外してください。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 使用後すぐにエンジンやマフラーに触れないでください。ヤケドの原因となります。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運転中、高電圧コードやプラグキャップに触れないでください。感電の恐れがあります。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ エンジンは作業機に搭載した状態で使用するようには作られていますので、絶対にエンジン単体で始動させないでください。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運転操作のわからない人、指導を受けていない人、お子様には絶対操作させないでください。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本機に付いているカバーやラベル、その他の部品を外して使用しないでください。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 燃料は非常に引火性が高く、気化した燃料は爆発事故を起こす恐れがあります。燃料補給の際は必ずエンジンを止め、エンジンが冷えた後、周りに火気が無いことを確認してから補給してください。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 整備点検・燃料補給の際や燃料タンクの側では絶対にタバコを吸ったり、火気や火花を近づけないでください。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本機の周りに、可燃性・石油、シンナー、火薬、揮発性の液体、ガス等の燃えやすい物は近づけないでください。爆発事故や火災の原因となります。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作業に入る前に作業手順をよく考え、事故が起きないようにしてください。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 誤って本体を落としたり、ぶついたりした場合は異常の有無を確認してください。破損や亀裂、変形が無いことをよく確認してください。ケガや火災の原因となります。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 点検作業等を行う際は、通行の妨害にならないような場所及び平坦で安全な場所で行ってください。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 輸送途中の衝撃等により、製品が破損したり、取付部品が曲がったり外れたりする場合がありますので、ご使用前には必ず確認して、正規の状態でご使用ください。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 可燃性・揮発性の液体やガス等の燃えやすいものの近くでは運転しないでください。爆発や火災の原因となります。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本体を車で運搬する場合は、燃料タンクに燃料が入っていない(空の状態)事を確認してください。また、本体が動かないようにしっかり固定してください。火災や事故の原因となります。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本機を始動させる前に、必ず全てのボルト・ナット等が適切に締め付けられているか確認してください。調整用の工具類は使用後すぐに外すようにし、エンジンを始動する前には必ずそれらが外してあることを確認してください。</li> </ul>	










 警告

<ul style="list-style-type: none"> <li>作業以外で本機を移動する際は必ずエンジンを停止させてから移動させてください。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>本機をお子様に操作させたり、近寄らせないでください。ケガの原因となります。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>使用方法・作業方法・周囲状況等に十分に注意をして使用してください。軽率な行動は事故やケガの原因となります。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>リコイルスターターを引いてエンジンをかける時、遅れてエンジンが始動する場合がありますので注意してください。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>作業場所には、作業関係者以外は近づけないでください。特にお子様は危険です。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>指定された用途以外に使用したり、水中で作業しないでください。穴あけ作業以外には使用しないでください。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>本機を無人で放置しないでください。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>夜間や天候不良などの視界が悪いときは使用しないでください。また、雨中や濡れた場所では使用しないでください。足元が不安定で、事故の原因となります。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>安全に使用するために、エンジンの能力に合った負荷で使用してください。過負荷で使用すると発熱し、故障や火災等の原因となります。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>使用中、機械の調子が悪かったり、異常音や異常振動等がしたときには直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に点検・修理を依頼してください。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>傾斜地や滑りやすい場所など、安定した作業を行えない場合は使用しないでください。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>スイッチを「切」にした時、エンジンが完全に停止している事を確認してください。また、本体から離れる時は、スイッチを「切」にしてエンジンを停止させてください。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>作業中は、左右のハンドルをしっかり持ち、正しい姿勢で作業をしてください。常に足元をしっかりさせ、バランスを保つようにしてください。無理な姿勢で作業をしないでください。転倒するなど、思わぬ事故の原因となります。掘削時に振り回されることがあり危険です。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>5m以内に人や動物を近づけないでください。また、二人以上で作業をする場合も5m以上離して作業をしてください。思わぬ事故やケガの原因となります。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>十分に安全を確認してからエンジンを始動してください。エンジンを始動すると同時にドリルが回転する場合があります。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>ビニールハウス内など換気の悪い場所では作業を行わないでください。一酸化炭素中毒になる恐れがあります。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>安全に作業を行うために、エンジンを始動させないで、機械の操作方法を練習してください。</li> </ul>	

 警告

<ul style="list-style-type: none"> <li>・修理は必ずお買い求めの販売店、または弊社のお客様相談窓口までご依頼ください。ご自身で修理をすると、事故やケガの原因となります。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本機を使用しない場合は、燃料を抜き、お子様の手の届かない乾燥した場所または鍵のかかるところに保管してください。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・回転中のドリルには絶対に触れないでください。ケガなど事故の原因となります。衣類なども巻き込まれないように注意してください。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・燃料の混合、および給油した場所でエンジンを始動させない、少なくとも3m以上離れた所で始動させてください。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・次の場合は、エンジンを停止させドリルの回転が止まるのを確認してください。本体が動いたままでは、思わぬ事故の原因となります。             <ul style="list-style-type: none"> <li>●危険を感じた場合、危険が予想される場合</li> <li>●作業場所を移動する場合</li> <li>●本体に巻き付いたゴミや草を取り除く場合</li> <li>●作業場所の障害物を取り除いたり、作業で発生した土等を運ぶ場合</li> <li>●ドリルの交換、その他の点検を行う場合</li> <li>●使用しない場合</li> </ul> </li> </ul>	

 注意

<ul style="list-style-type: none"> <li>・本機は空冷2サイクルガソリンエンジンですので、使用燃料は25：1（無鉛ガソリン：2サイクルエンジン専用オイル）を使用してください。ガソリンのみでエンジンをかけたり、混合比を誤りますとエンジンが故障する原因となります。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・燃料系統の部品に異常が無いかを定期的に点検してください。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用時、燃料は常に新しい物を使用してください。古い燃料を使用していると、運転が不調になる原因となりますので絶対に使用しないでください。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・リコイルスターターや冷却フィンの周りについたゴミは取り除くようにしてください。また、定期的にエアフィルター清掃を行ってください。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業をする前に、その地域の規則や取り決めがあるか確認してください。ある場合は、それに従ってください。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・運搬、保管の際は、安全のため必ずドリルをウエスなどで包んでください。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業中は、保護メガネ・イヤーマフ（耳栓）・手袋等で身体を防護してください。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本体は注意深く手入れをしてください。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業をする場所の石、カン、ビン、コンクリート、針金など、落ちていた物を取り除いてください。また、木の根や岩のある場所では作業しないでください。ドリルの損傷やケガの原因となります。</li> </ul>	

## ⚠ 注意

・ドリルは、確実に取り付けられているか、損傷や変形などの異常がないか確認してから使用してください。異常がある状態で使用すると事故やケガの原因となります。



・長期間の保管の際は、燃料タンク・キャブレター内の燃料を抜いてください。各部の清掃をきちんと行い、金属部分には薄くオイルを塗ってください。



・一日の作業時間は2時間以内にしてください。疲労は事故の最大の原因です。長時間の連続使用はしないでください。30分作業したら、10分以上休息してください。

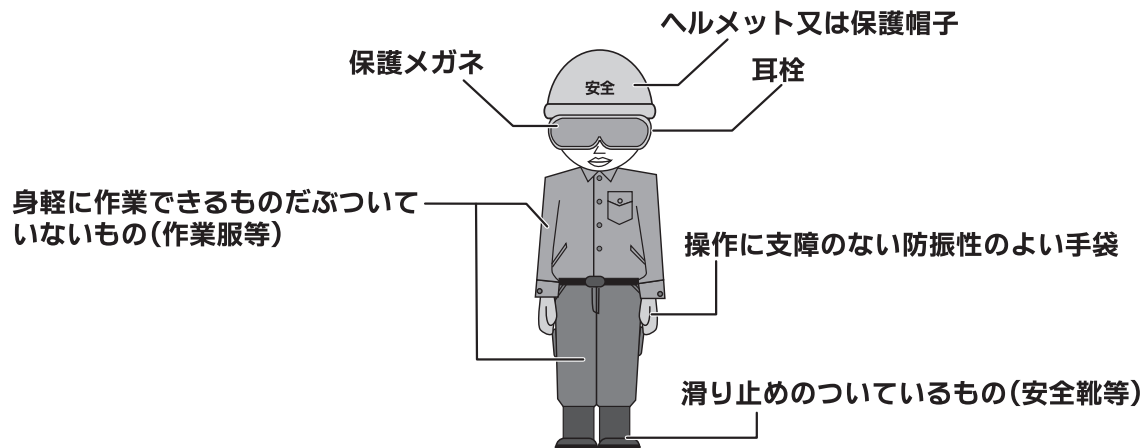
1回の連続使用	30分以内
1日の使用時間	2時間以内
連続使用日数	3日以内
1週の使用日数	5日以内
1ヶ月の使用時間	40時間以内



### ○騒音防止規制

・騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。ご近所に迷惑をかけないように、規制値以下でご使用になることが必要です。

※注意に表記してあるものでも状況によっては、死亡・重傷等、重大な事故につながる恐れがありますので必ず守ってください。



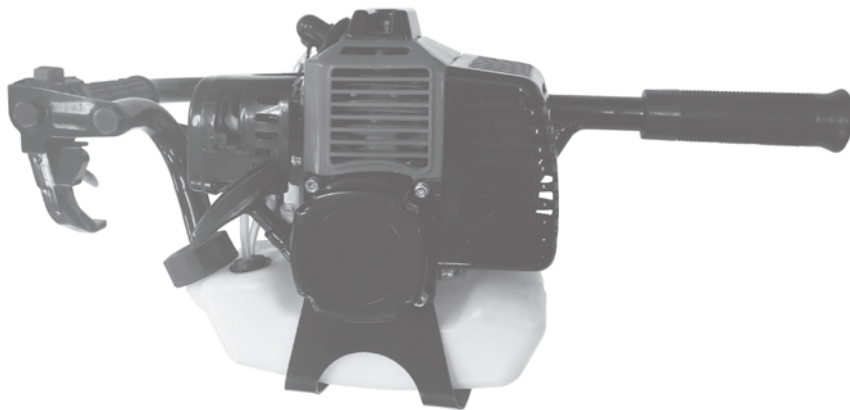
上図のような動きやすい服装で作業を行ってください。

## 【仕様】

エンジン形式	空冷2サイクルガソリンエンジン
使用燃料	潤滑油混合ガソリン 無鉛ガソリン：2サイクルエンジン専用オイル 25：1
排気量	32.6mL
出力	0.9kW (1.2PS) /7500min <sup>-1</sup>
燃料タンク容量	0.8L
始動方式	ダンパー付リコイルスターター
点火プラグ	TORCH：L7RTC (NGK：BPMR7A互換)
減速比	30：1
ドリル取付軸径	20mm
ドリル回転速度	200min <sup>-1</sup> (エンジン回転数6000min <sup>-1</sup> )
ギヤオイル量	ギヤオイル SAE80W-90 100mL
騒音値	約97dB (1m四方平均値)
本体寸法	W560mm×D350mm×H240mm
質量	約8.5kg

※仕様・外観等は改良等のため、予告なく変更することがあります。

## 【付属品】 ※大きさは実寸比と異なります。



エンジンオーガー本体 ×1



T型ボックスレンチ ×1



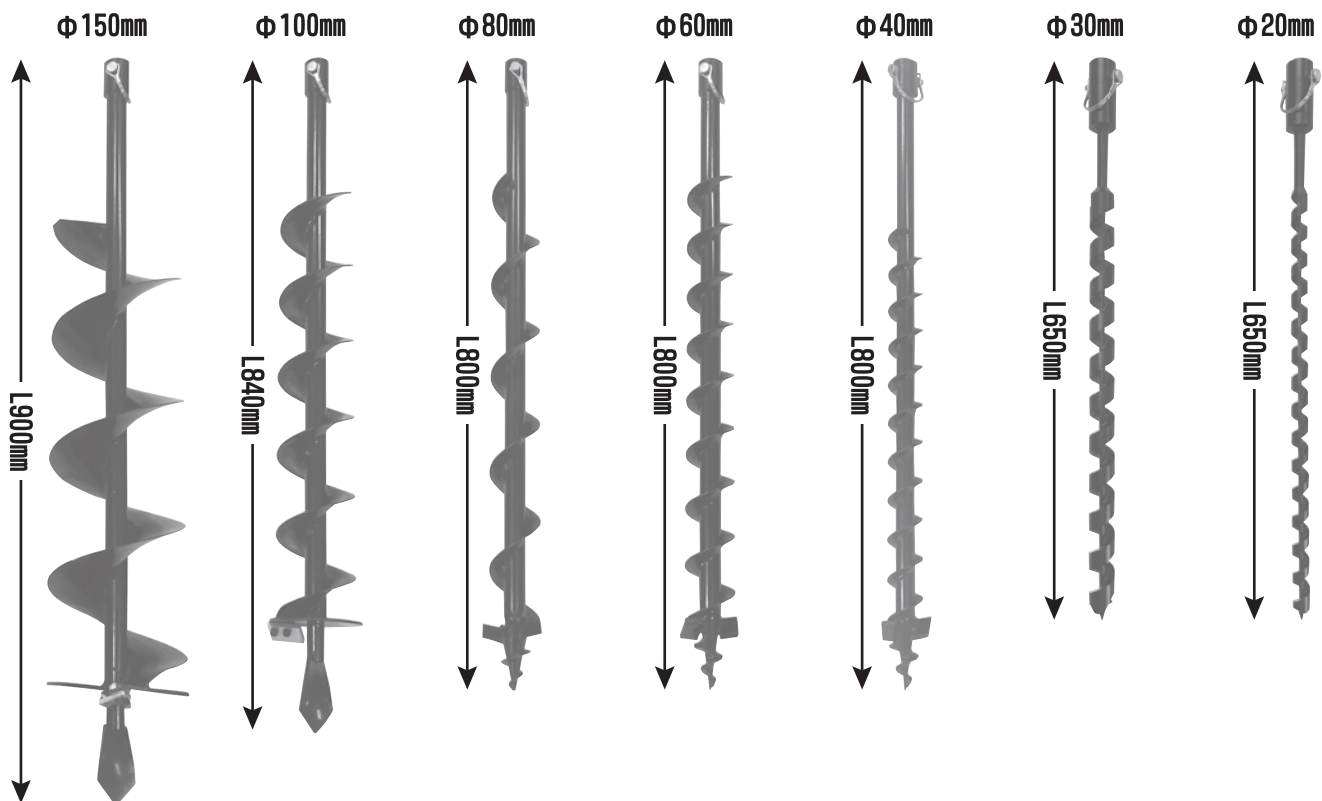
混合ガソリン容器 ×1



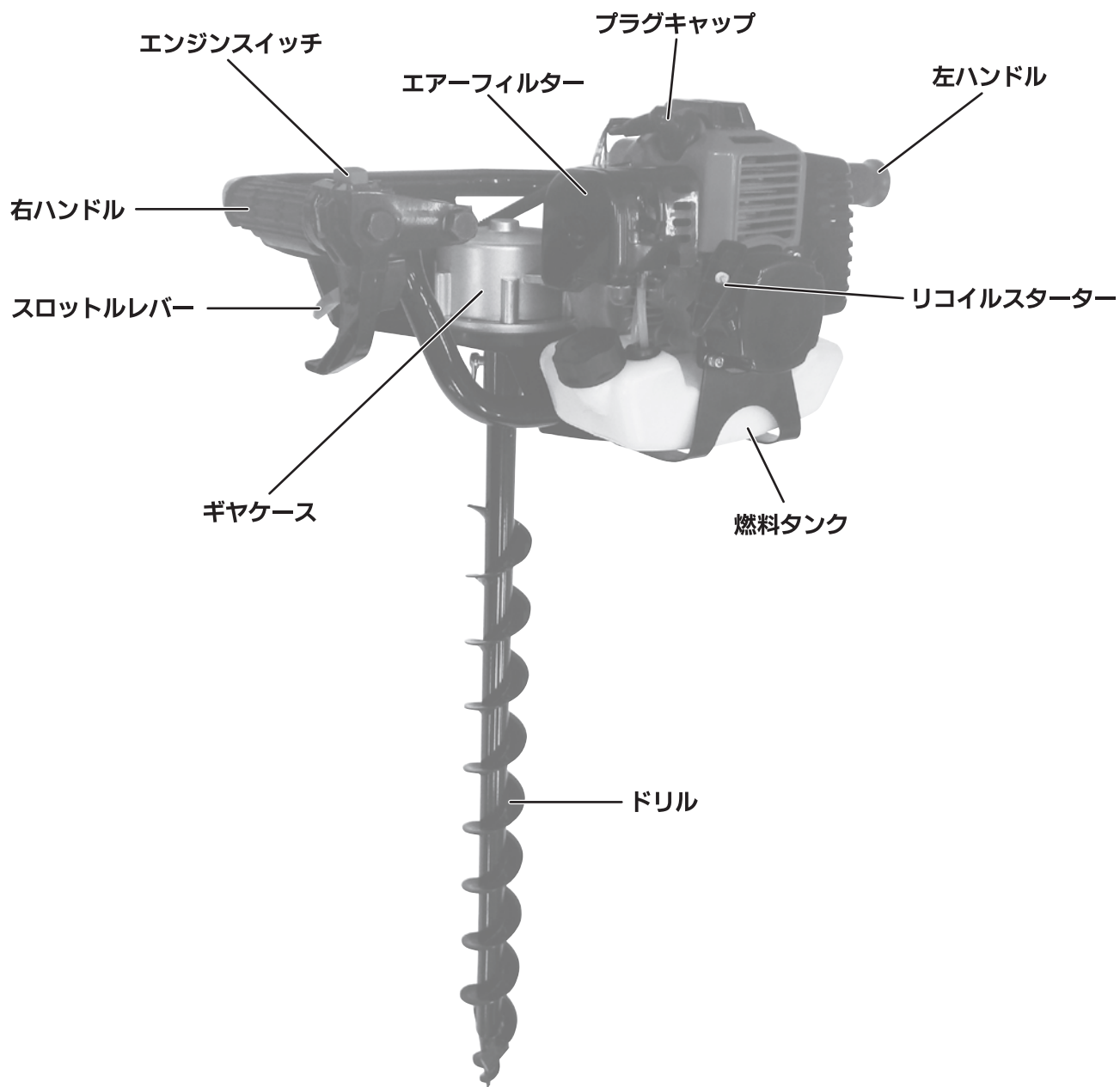
# 【ドリル】

※ドリルは別売品です。用途に合わせてお買い求めください。

製品名	JANコード
EA-33D用ドリルφ20×L650mm	4511340120168
EA-33D用ドリルφ30×L650mm	4511340120175
EA-33D用ドリルφ40×L800mm	4511340120182
EA-33D用ドリルφ60×L800mm	4511340120199
EA-33D用ドリルφ80×L800mm	4511340120205
EA-33D用ドリルφ100×L840mm	4511340120212
EA-33D用ドリルφ150×L900mm	4511340120229



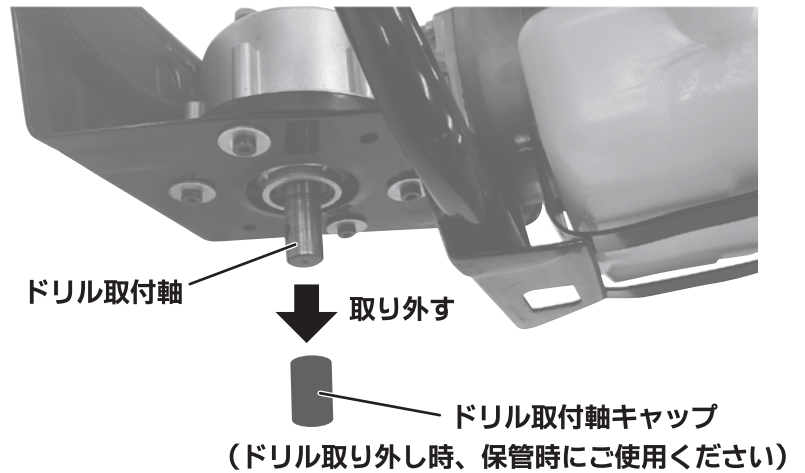
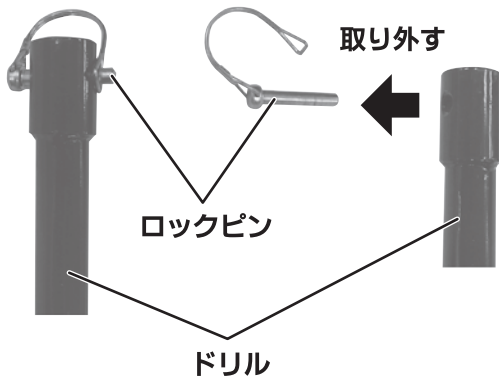
**【各部名称】** ※ドリルは別売品です。



## 【ドリルの取り付け方法】

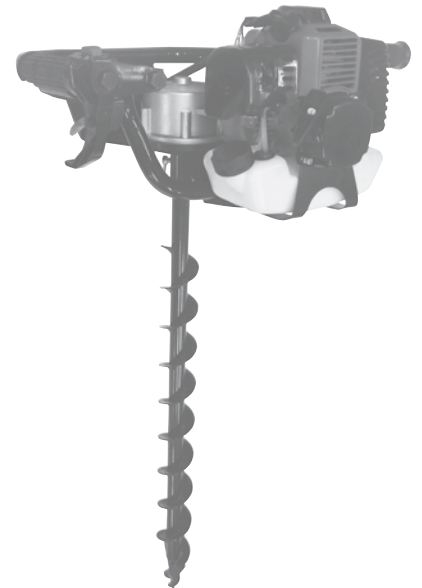
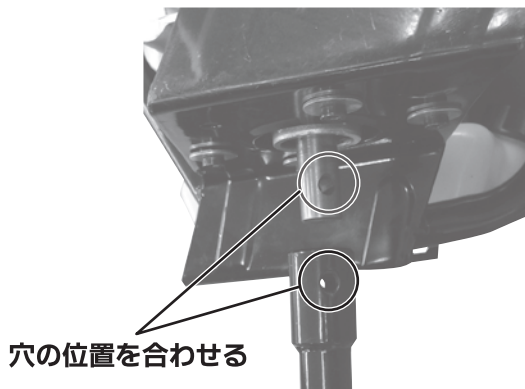
①ドリルのロックピンを取り外します。

②本体のドリル取付軸に被せてあるドリル取付軸キャップを取り外します。



③本体のドリル取付軸の穴と、ドリルの穴の位置を合わせてドリルをドリル取付軸に差し込みます。

④ロックピンを穴に通して確実に留めます。



## 【使用前の準備】

### ●作業場所の整備

- 作業をする場所に障害物(カン・ビン・石・針金・紐など)が落ちていないか確認してから作業をしてください。また、木の根が這った場所や岩のあるところ、水中では使用しないでください。ドリルの損傷やケガの原因となります。

## 【使用方法】

### ●燃料の準備・給油

#### ⚠ 警告

- ・燃料はこぼさないように注意してください。こぼしてしまった場合には、こぼした燃料を良く拭き取り、完全に乾燥させてからご使用ください。
- ・燃料の混合・給油を行うときは、火気の無い場所で行ってください。タバコを吸ったり、その他の火気を絶対に近づけないでください。火災・爆発・ヤケドの原因となります。
- ・本機は空冷2サイクルガソリンエンジンですので、使用燃料は25：1(無鉛ガソリン：2サイクルエンジン専用オイル)を使用してください。ガソリンのみで使用したり、混合比を誤りますとエンジンが故障する原因となります。
- ・エンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。
- ・燃料が残っている燃料タンクキャップを開けるときはゆっくり開けてください。内圧により燃料が飛び出すことがあります。燃料が肌についたり、目に入ったりすると、アレルギーや炎症の恐れがあります。肌についたり目に入った場合はただちに流水で充分洗い流し、体に異常がある場合は、直ちに専門医に相談してください。

#### ⚠ 注意

- ・燃料は、作業に必要な量をその都度準備してください。1ヶ月以上経過した燃料は揮発したり、腐敗してエンジンが故障する原因となります。
- ・作業終了後、使用しないときは燃料をタンクから抜いてください。故障の原因となります。
- ・燃料は、燃料タンクの口元いっぱいまで入れないで、8分目位までとしてください。
- ・燃料はガソリン専用の容器に入れて、火気のない場所で保管または運搬してください。

①燃料タンクキャップを回して外し、混合ガソリン(25：1)を給油します。

②給油後は、燃料タンクキャップをしっかり締めてください。燃料漏れのないことを確認してください。  
※口元一杯まで入れないで、8分目程度にしてください。

### ●エンジンの始動

#### ⚠ 警告

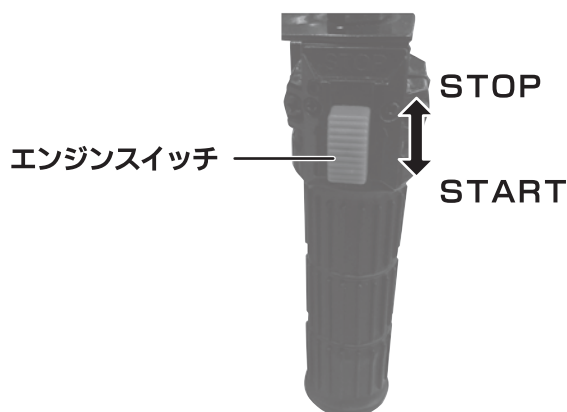
- ・エンジンを始動させる前に必ず各部の点検を行ってください。
- ・疲れている時や体調の悪い時、酔っ払っている時、又は薬物を服用している時は絶対に使用しないでください。
- ・エンジン音の異常や作業中に異常を感じた際は、使用をすぐに止め、点検又は修理を依頼してください。
- ・屋内や倉庫等の換気の悪い場所では使用しないでください。また、風通しの悪い場所や排気のこもる場所では使用しないでください。一酸化炭素が溜まり、ガス中毒の原因となります。
- ・燃料の混合、および給油した場所でエンジンを始動させない、少なくとも3m以上離れた所で始動させてください。

#### ⚠ 注意

- ・エンジンが始動すると同時にドリルが回転する場合がありますので注意してください。

#### エンジンが冷えている場合

①エンジンスイッチを「START」の位置にしてください。

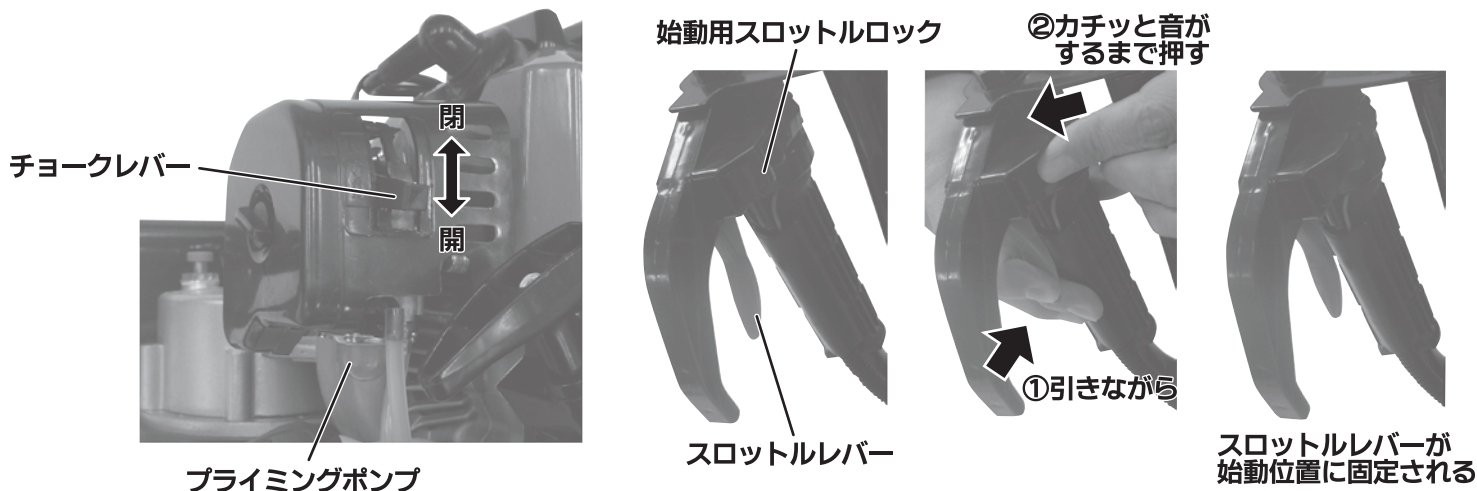


②燃料が入ってくるまでプライミングポンプを押します。

※10回程度押せば燃料が上がってきます。

③チョークレバーを「閉」の位置にしてください。

④スロットルレバーを引きながら始動用スロットルロックをカチッと音がするまで押し、ゆっくりとスロットルレバーから手を離すと、スロットルレバーがエンジン始動位置に固定されます。



⑤平らで安定した場所に本体を寝かせ、本体をおさえながらリコイルスターターをゆっくりと引きます。

リコイルスターターに抵抗を感じたら、勢いよく引き、それを最初の初爆音がするまで繰り返し行います。

初爆してすぐに止まってしまった場合、⑥→⑧の手順へ

エンジンが始動した場合、⑦→⑧の手順へ

※リコイルスターターを引くときは、必ず本体側に立って引いてください。エンジン始動と同時にドリルが回転して動き出す場合がありますので注意してください。

※リコイルスターターはロープ引き出し口の方向にならって真っ直ぐ引いてください。

※ロープはいっぱい引ききらないでください。

※リコイルスターターを引いた後は、手を離さずに静かに戻してください。

### ⚠ 注意

・チョークレバーを「閉」の位置にしたまま、何十回も繰り返しリコイルスターターを引き続けると燃料を吸い込みすぎてエンジンがかかりにくくなります。燃料を吸い込みすぎた時は、点火プラグを外し、電極を完全に乾かしてから元通り取り付けて始動操作をやり直してください。

⑥チョークレバーを「開」の位置に戻して、再度リコイルスターターを引いて、エンジンを始動させてください。

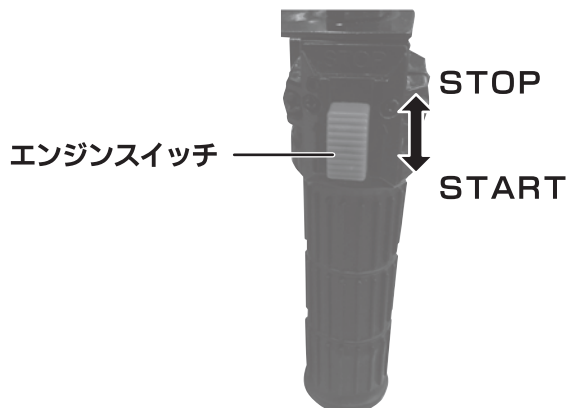
⑦エンジンが始動したらチョークレバーを「開」の位置に戻してください。

⑧2～3分ほど暖機運転してからスロットルレバーを引き、スロットルレバーを始動位置から戻します。

### エンジンが暖まっている場合

※エンジンが暖まっている場合は、チョークレバー・始動用スロットルロックを操作する必要はありません。

①エンジンスイッチを「START」の位置にしてください。



②燃料が入ってくるまでプライミングポンプを押します。

※10回程度押せば燃料が上がってきます。

③平らで安定した場所に本体を寝かせ、本体をおさえながらリコイルスターターをゆっくりと引きます。

④リコイルスターターに抵抗を感じたら、勢いよく引き、エンジンを始動させます。

※リコイルスターターを引くときは、必ず本体側に立って引いてください。エンジン始動と同時にドリルが回転して動き出す場合がありますので注意してください。

※リコイルスターターはロープ引き出し口の方向にならって真っ直ぐ引いてください。

※ロープはいっぱい引ききらないでください。

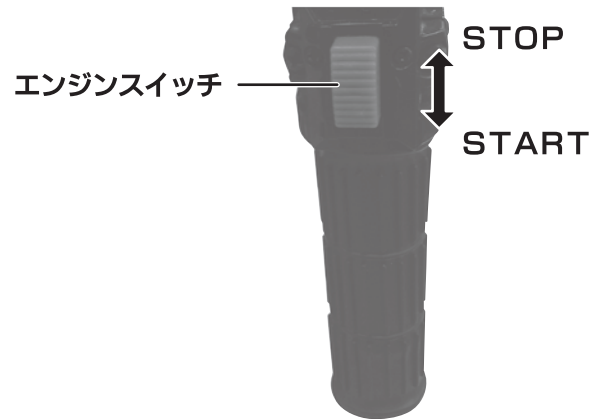
※リコイルスターターを引いた後は、手を離さずに静かに戻してください。

## ●エンジンの停止

①スロットルレバーを放し、エンジンの回転が低速回転になってからエンジンスイッチを「STOP」の位置にします。

②エンジンが停止します。

※長期間使用しないときは、タンクの燃料を抜き、再度低速でエンジンが自然に止まるまで運転しておいてください。



## 【作業方法】

### ⚠ 警告

- ・使用後すぐにエンジンやマフラーに触れないでください。ヤケドの原因となります。
- ・作業をする時は、必ず両手でしっかりハンドルを持ってください。無理な姿勢では作業をしないでください。
- ・5m以内に人や動物を近づけないでください。また、二人以上で作業をする場合も5m以上離して作業をしてください。思わぬ事故やケガの原因となります。
- ・ドリルに石や異物が挟まったり、草などが巻き付いてドリルの回転が止まった時は、必ずエンジンを停止させてから、これらの物を取り除いてください。エンジンが回っている時にこれらの物を取り除くと、不意にドリルが回りケガの原因となります。

### ⚠ 注意

- ・作業をする場所の石、カン、ビン、コンクリート、針金など、落ちている物を取り除いてください。また、木の根や岩のある場所では作業しないでください。ドリルの損傷やケガの原因となります。
- ・ドリルは確実に取り付けられているか、損傷や変形などの異常がないか確認してから使用してください。異常がある状態で使用するとケガの原因となります。
- ・燃料は少なくなってきたら早めに補給してください。

①穴を開ける位置にドリルの先端を軽く置き、機体を垂直に立ててスロットルレバーをゆっくりと引いてエンジンの回転を徐々に上げます。

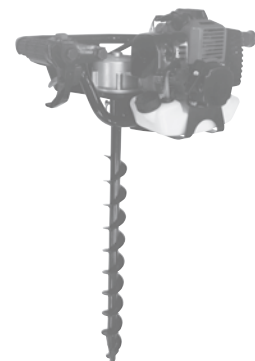
②ドリルが掘削を開始したらエンジンを全開にして、機体を上から軽く押し付けるようにして掘り進めます。

③途中で2～3回機体を引き上げ、ドリル周りの土を排出させてください。土質が粘土質の場合や深い穴をあける場合には頻りに引き上げ作業を行ってください。一気に掘り進めようとすると、ドリルが地面に食い込んで、抜けなくなる恐れがありますので注意してください。

#### 《注意》

過度な負荷でドリルが回転しなくなった場合は、一旦スロットルレバーを離し、機体を引き上げてください。ドリルが回転しない状態でエンジンの回転を上げると、ギヤ、クラッチ破損の原因となります。

ドリルが食い込んで抜けなくなった場合は、スロットルレバーを離し、機体を左に回して食い込みを解除してください。





## 【保守と点検】



- ・整備・点検・修理・燃料補給を行うときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。
- ・また、点火プラグからプラグキャップを外してください。
- ・定期的にマフラーの点検、各部ナット・ネジのゆるみがないかの確認、燃料漏れの確認をしてください。

### ●エアフィルターの清掃

- ・チョークレバーを「閉」側に倒し、キャブレターに塵埃などが入るのを防ぎます。
- ・エアフィルターの汚れは定期的に確認してください。
- ・汚れている場合には、下記の手順で清掃を行ってください。

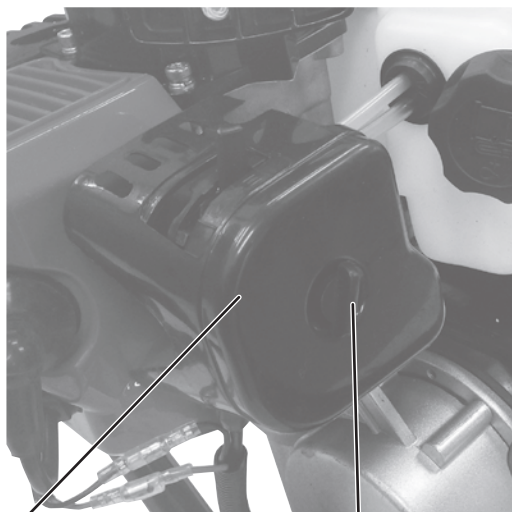
①固定ノブを外してエアフィルターカバーを取り外し、スポンジフィルターを外します。

②スポンジフィルターに付着しているゴミやホコリを払ってください。

※スポンジフィルターが汚れていると、エンジンの始動不良や出力不足等の原因となりますので、スポンジフィルターはきれいにしておいてください。

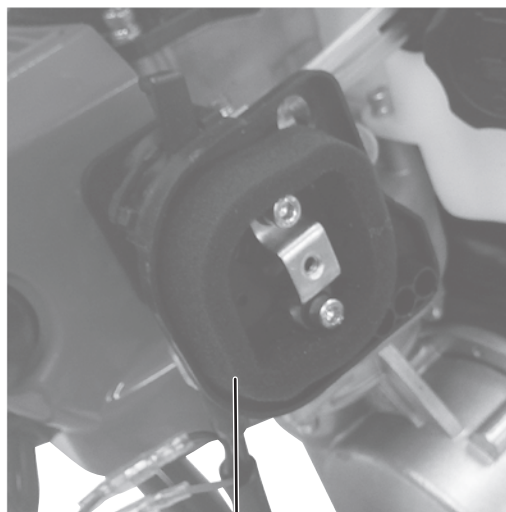
※清掃してもスポンジフィルターの汚れがひどい場合、または傷みがある場合には、新しい物と交換してください。

③清掃が終わったら取り外したときと逆の手順で取り付けます。



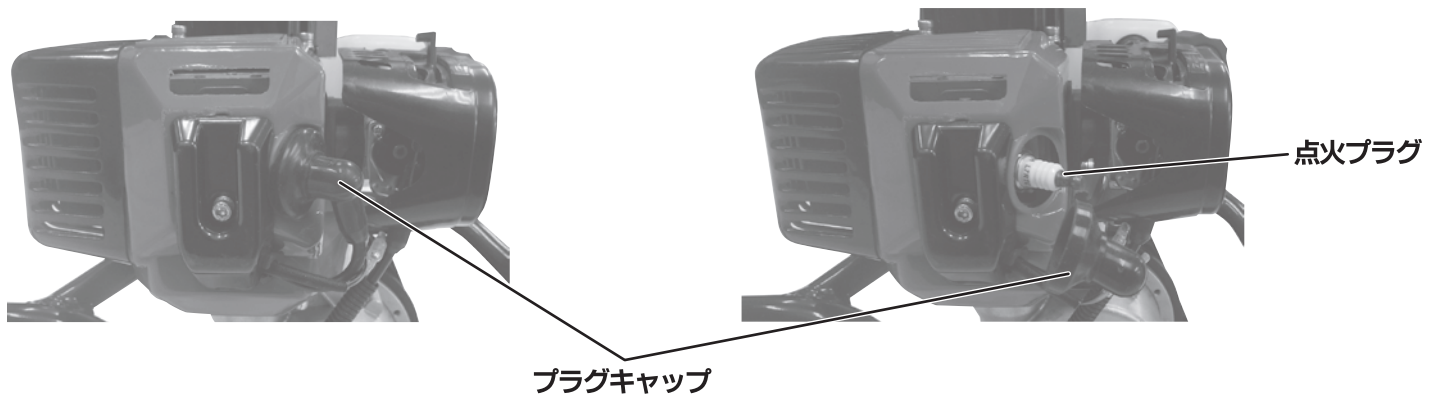
エアフィルターカバー

固定ノブ



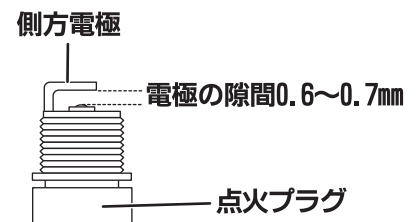
スポンジフィルター

## ●点火プラグの清掃



①プラグキャップを外し、付属のT型ボックスレンチで点火プラグを外します。

②電極が汚れている場合には、プラグ用クリーナー・ワイヤーブラシ等でカーボンを落とすか点火プラグを交換してください。  
※電極の隙間が大きい場合には、側方電極を曲げて、隙間の調整を行ってください。



標準プラグ	TORCH : L7RTC (NGK : BPMP7A互換)
-------	--------------------------------

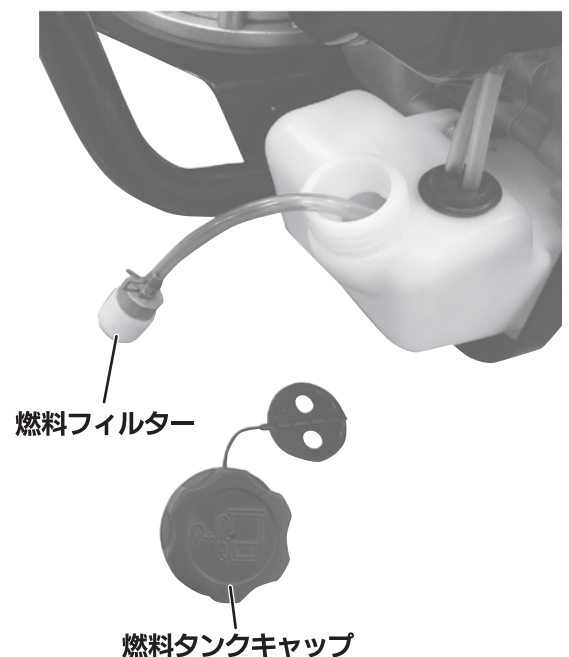
## ●燃料フィルターの清掃

### ⚠ 警告

- ・燃料が残っている燃料タンクキャップを開けるときはゆっくり開けてください。内圧により燃料が飛び出すことがあります。また、燃料フィルターを取り出す際もご注意ください。燃料が肌についたり、目に入ったりすると、アレルギーや炎症の恐れがあります。肌についたり目に入った場合はただちに流水で十分に洗い流し、体に異常がある場合は、直ちに専門医に相談してください。
- ・エンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。

・燃料フィルターが詰まると、燃料が上がらず、エンジンの回転不調の原因となります。定期的を確認してください。

- ①燃料タンクキャップを外し、燃料を抜きます。燃料タンクを空にします。燃料タンク内に異物が残っていないかを確認し、残っている場合はきれいに抜き取ります。
- ②針金等を使って燃料フィルターを取り出します。
- ③燃料フィルターをガソリンでよく洗います。汚れたガソリンは各自治体指定の方法で処理してください。(汚れのひどいときは交換してください。)
- ④燃料タンク内に燃料フィルターを入れ、燃料タンクキャップを元通りに取り付けます。



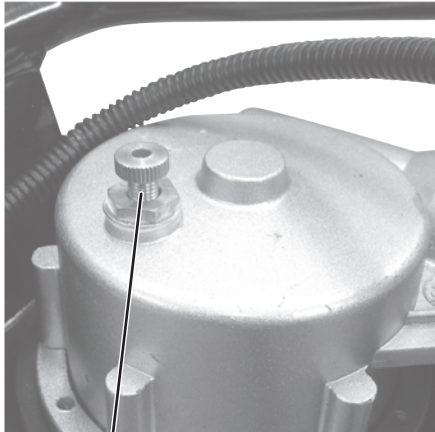


## ●その他の清掃

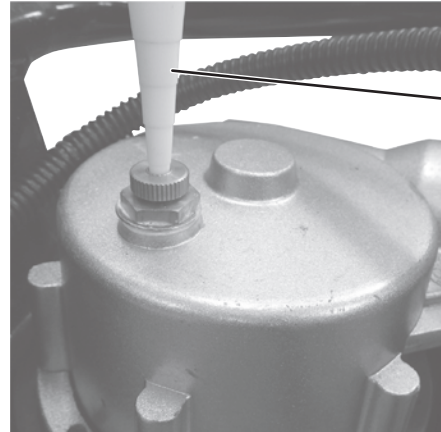
- ・各部に付いたゴミやホコリはしっかりと拭き取ってください。また、本体は水洗いしないでください。
- ・本体に取り付けたままの状態、ドリルを水に浸けての清掃は絶対にしないでください。機械の故障の原因になります。

## ●ギヤケースのオイル注入

- ・ギヤケースには定期的にオイル注入口のボルトをゆるめてオイルガン(市販品)等でオイルを注入してください。  
※使用するオイルは、ギヤオイルSAE80W-90と同等の物を使用してください。



オイル注入口



オイルガン

## ●保管方法

- ・長期間(30日以上)使用しない場合には、燃料タンク及びキャブレター内の燃料を抜いてください。  
※キャブレター内に燃料を残したままにしておきますと、キャブレター内の詰まり、作動不良等の原因となります。  
※燃料を抜く際は、容器(市販品)等を用意して、周囲に燃料がこぼれないようにしてください。

- ①燃料タンクキャップを外し、針金等を使って燃料フィルターを取り出します。
- ②燃料が出なくなるまで、プライミングポンプを押します。
- ③燃料タンクから燃料を抜き、燃料タンクを空にします。
- ④燃料が抜き終わったら、燃料タンク内に燃料フィルターを戻し、燃料タンクキャップを元通りに取り付けます。
- ⑤最後にエンジンが自然に停止するまで低速で運転をさせてください。
- ⑥点火プラグを外し、プラグの穴から少量の2サイクルエンジンオイルを流し込み、リコイルスターターをゆっくり引き、エンジン内にオイルを行きわたらせ、点火プラグをもと通りに取り付けてください。
- ⑦リコイルスターターをゆっくり引き、圧縮のあるところ(重くなったところ)で止めてください。
- ⑧各部についたゴミやホコリをしっかりと拭きとってください。
- ⑨各部の清掃をきちんと行った後、金属部分には薄くオイルを塗ってください。
- ⑩安全のため必ずドリルを外した状態で保管してください。
- ⑪エンジンが十分冷えていることを確認してから、ホコリがかからないようにカバーなどをしておいてください。

## ●トラブルの原因と対策

### ⚠注意

- ・本機の修理は、必ずお買い求めの販売店へお申し付けください。
- ・運転中、本機の調子が悪かったり本機に異常を感じたときは、ただちに使用を中止してください。
- ・取扱説明書の説明以外の分解・修理および改造は絶対に行わないでください。

状 態	原 因	対 策
エンジンが始動しない、 またはすぐ停止する	燃料が無い・古い	新しい燃料を補給する
	エンジンスイッチが「STOP」になっている	エンジンスイッチを「START」にする
	点火プラグから火花が出ない	点火プラグの清掃・調整もしくは交換をする
	エアフィルターが詰まっている	フィルター類を清掃もしくは交換をする
	オーバーチョーク（燃料の吸い込み過ぎ）	点火プラグを外してリコイルスターターを5・6回引き、点火プラグの電極部を乾かしてから点火プラグを装着して、再度エンジンを始動させる
	燃料が回っていない	プライミングポンプを押す
	リターンパイプが折れている、または外れている	燃料が流れやすいようにリターンパイプを調節する
	マフラーにカーボンが詰まっている	マフラーの掃除・カーボン除去をする
	エンジンが暖まっているのにチョークレバーが「閉」側になっている	チョークレバーを「開」側にする
	暖機不足	暖機運転をする
	圧縮が不足している	お買い求めの販売店に相談をする
エンジンの出力不足 および回転が不安定	エンジンが故障している	お買い求めの販売店に相談をする
	燃料フィルターの詰まり	清掃をする
	エアフィルターが詰まっている	フィルター類の清掃もしくは交換をする
エンジンが停止しない	点火プラグの汚れ	点火プラグの清掃・調整もしくは交換をする
	スイッチ端子の不良・汚れもしくはスイッチリード線の不良	お買い求めの販売店に相談をする
	ドリルが正しく装着されていない	ドリルを確実に取り付ける
ドリルが回転しない	ドリルに異物が引っ掛かっている	異物を取り除く
	ドリルが破損（割れ・歪み・摩耗）している	新しいドリルに交換する
本体が異常に振動する	ハンドル、その他の締め付け部分の緩み	しっかり増し締めをする
	ドリルに異物が引っ掛かっている	異物を取り除く

※上記の表は簡単な異常に対しての対策のみを記載しておりますので、わからない点や複雑な異常については、お買い求め販売店へご相談ください。



# 株式会社 ナカトミ

〒382-0800 長野県上高井郡高山村大字高井6445番地の2

●製品についてのお問い合わせは「お客様相談窓口」までご連絡ください。

**お客様相談窓口 TEL. 026-245-3105 FAX. 026-248-7101**

受付時間10:00~12:00 13:00~17:00(土・日・祝日を除く)

※製品は改良等のため予告なく外観・仕様等を変更することがあります。